

第6回 CSSを使って色を付けてみよう

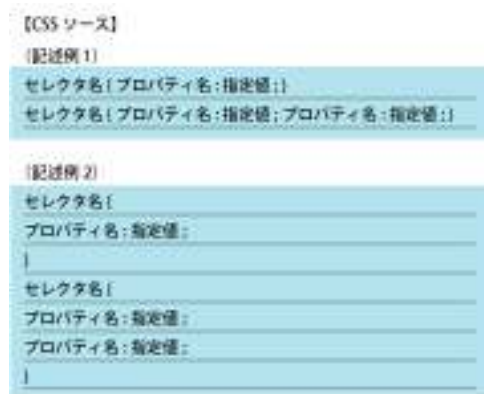
いよいよ今回から、実際にCSSファイルにスタイル指定を記述していきます。CSSでの装飾やレイアウトに徐々に慣れていきましょう。HTMLに含まれる内容を装飾したり、レイアウトしたりするためには、任意のセレクトでスタイルを適用する場所を特定し、そのセレクト内にスタイル指示を記述します。まずは、一番簡単かつ一番利用頻度の高い「色」に関するスタイル指定をマスターしていきます。従来のHTML側に記述していた内容と大差ないので、すぐに覚えられるでしょう。（解説：こりまさあき）

スタイル指定の前に、セレクト内の記述の基本形を覚えよう

これまでの本連載では、CSSに関して覚えておきたい基礎知識を解説することに終始し、実際「どのように記述するのか」についてはあまり触れてきませんでした。

CSSを使ってHTML文書内に存在する要素を装飾・レイアウトするためには、その要素を特定するためにセレクトを利用します。実際のセレクト内では、「指定したいプロパティ名:指定値」をひとつのスタイル指定のセットとして記述します。セレクト内には適用したいスタイルに合わせて単一、もしくは複数のセットが含まれます。

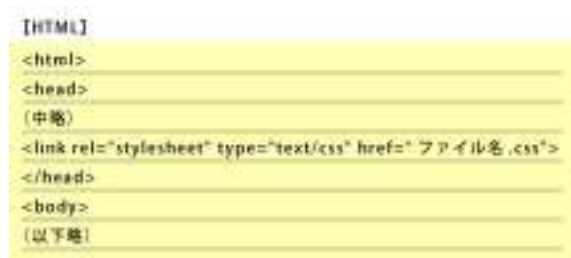
複数のスタイル指定を記述する場合は、それぞれの区切り文字として「;(セミicolon)」を記述します。これは、CSSを覚え始めたばかりの頃に案外忘れがちなので気をつけましょう。単一のスタイル指定では必要ありませんが、入れておく癖を付けておけば安心です。



セレクト内のスタイル指定の記述は「プロパティ名:指定値」の組み合わせをセットとして記述する。スタイル指定の読みやすさを考慮しセレクト内に余白を入れる場合は、必ず「半角スペース」を使用する(本来スペースは、特殊な値を指示する以外は不要)。「全角スペース」が含まれた場合はエラーになるので、気をつけよう。

CSSを使ってHTML内の要素に色を適用する

ここからはCSSを記述していくため、新規テキストファイルを作成したら任意のファイル名を付け、拡張子「.css」を付けて保存してください。HTMLファイルには、前回に説明したlink要素を使った参照の記述をします。ここでは、わかりやすいようHTMLファイルとCSSファイルは同じディレクトリに用意しておきましょう。



「任意のファイル名+.css」というCSSファイルを用意し、HTMLのhead要素内で、link要素を使ってCSSファイルを参照させるよう指定する

従来の直接HTML文書内に装飾指定をするやり方では、「<body color="#000000" bgcolor="#ffffff">」のように、特定のタグに対してcolor属性やbgcolor属性を使って16進数やカラー名で、指定したい色を記述していました。

CSSでは、セレクト内にこれらの指定を記述します。HTMLで利用していたこれら装飾用の属性名は、同じ文字列表記がプロパティ名になる場合と、そうではなく表記が異なるプロパティ名になる場合があります。しかし、基本的には英単語がベースになっていますので、属性名の記述よりは理解しやすいでしょう。

この「<body color="#000000" bgcolor="#ffffff">」をCSSで置き換えると以下ようになります。

【HTML】

```
<html>
<head>
(中略)
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="ファイル名.css">
</head>
<body>
(以下略)
```

【CSSソース】

```
@charset "UTF-8"; ←使用する文字コードを指定;
```

```
body { color: #000000; background-color: #ffffff; }
```

または、

```
body {
  color: #000000;
  background-color: #ffffff;
}
```

HTMLの属性として指定していた文字色「color」は「colorプロパティ: 値;」、背景色「bgcolor」は「background-color: 値;」という形で記述する

このようにbody要素を指示するため「body { }」というタイプセレクトタを用意し、その中に「color: #000000;」、「background-color: #ffffff;」を連続して記述します。HTMLで指定していた文字色の属性であるcolor属性は、そのまま同じ文字列「color」がプロパティ名となります。このcolorは、前景色を指定するためのプロパティです。背景色を指定していたbgcolor属性は「background-color」プロパティとなり、背景色を指定するために用いられます。

色の指定は、属性に記述していたように「16進数」や「色の名前」で指定することが可能です。

背景に関しては、背景画像を指定する「background-image」のように、「background-」とハイフンで繋いで背景に関するプロパティがいくつか存在します。この背景指定に関する「background-」で始まるプロパティは「ショートハンド」と呼ばれるまとめ書きのプロパティ「background」で、複数の背景に関するプロパティをひとつにまとめて指定することも可能です。

【CSSソース】

```
body {
  background: #ffffff url("背景画像のファイル名") repeat-x;
}
```

ショートハンドでの記述は、個々のプロパティの「値だけ」を半角スペースで区切って記述する

ショートハンドは、background以外のほかのプロパティにも存在しますので、このような記述ができると理解しておけば問題ありません。まずは、スタイル指定に必要なCSSのプロパティを覚えるためにも、個々のプロパティで覚えることをオススメします。

今回は、ショートハンドではない記述で前景色(文字色)と背景色の指定をしたら、CSSファイルを保存し、HTMLファイルをブラウザで開いて確認してみましょう。

どうでしょう？ CSSは恐れるに足らずということが理解いただけたでしょうか。覚えるべきことは、自分が適用したい装飾やレイアウトを実現するための「プロパティ名」と、それに適用する「値」だけなのです。あとは、それを単一もしくは複数組み合わせただけです。

次回は、フォントに関するスタイル指定を解説していきます。

Point

- ・スタイル指示は、基本的に「プロパティ名: 値;」を1セットとして記述する
- ・セレクトタ内には、単一もしくは複数のセットを記述していく
- ・余白を入れる場合は「半角スペース」のみに